

2025 年度
教 育 要 項

理学療法学科 第 3 学年



宮崎リハビリテーション学院

授業名	理学療法統合 I	履修時期	時間数（回数）	単位数
		3 年	30（15）	1
担当講師	理学療法学科 専任教員 外部講師：潤和会記念病院（系列施設含む）理学療法士、潤和会記念病院看護師	授業形態		必須/選択
		実技、講義		必須
教科書	・ 研修講義資料	成績評価		
参考書		・ 出席を評価とする（100 点） ・ 60 点以上で合格とする		
授業概要	・ クリニカルリーズニングの基本 ・ 基本的な疾患別理学療法技術の確認と実技演習。 ・ 特に疾患別理学療法については、専門性の高い臨床理学療法士から最新のトピックス等を交えながらの講義も行う。			
授業目標	・ 臨床実習における、評価の流れや臨床的思考について説明できる。 ・ 疾患別の評価、治療について説明できる。 ・ 基本的な理学療法技術を実施することができる。 ・ 吸引の基礎知識を説明でき、基本的な吸引操作を実施できる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	演習問題（脳血管疾患）			事前に課題が出る場合がある。
2	特別講義（脳血管疾患の臨床①）			
3	特別講義（脳血管疾患の臨床②）			
4	演習問題（呼吸・循環器疾患）			
5	特別講義（呼吸・循環器疾患の臨床①）			
6	特別講義（呼吸・循環器疾患の臨床②）			
7	演習問題（整形疾患）			基本的理学療法技術実習では、習熟度を上げるための練習を受講後に行うこと。
8	特別講義（整形疾患の臨床①）			
9	特別講義（整形疾患の臨床②）			
10	演習問題（小児疾患）			
11	特別講義（小児疾患の臨床①）			
12	特別講義（小児疾患の臨床②）			
13	演習問題（神経筋疾患）			吸引講義では準備学習として咽頭喉頭部の解剖学、生理学を復習しておくこと。
14	演習問題（ROM・MMT）			
15	特別講義（吸引講座：実技含む）			
備考				
教員の実務経験		外部講師（理学療法士、看護師）		
実務経験を活かした教育内容		臨床で働いている理学療法士により講義を行い、整形疾患・小児疾患・脳血管疾患・循環器疾患の理学療法の実例を紹介し、臨床場面を想定した基本的な理学療法の実技演習を行う。 又、長期実習前段階の基本的理学療法技術の確認を実施する。		

授業名	運動療法Ⅲ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		3 年	30（15）	1
担当講師	村野信之、大寺健一郎、南正覚肇、馬場義行、古瀬正志、吉田敏朗、長友典子 （理学療法学科 専任教員）	授業形態		必須/選択
		発表、実技		必須
教科書	・臨床実習レジュメ	成績評価		
参考書		・セミナー発表資料、セミナー発表で評価する（100 点） ・60 点以上で合格とする		
授業概要	・症例報告会（セミナー）を通して、多様なクリニカルリーズニングの手法を考察する。 ・基本的な治療の流れを学生同士で体験する。 ・基本的な理学療法技術の習熟度の確認を行う。			
授業目標	・理学療法の臨床において必要とされる知識・技術等を統合し、説明することができる。 ・基本的理学療法技術を実施することができる。			
授業内容				
回数	内容		準備学習・課題等	
1	オリエンテーション、要項の確認		発表用のパワーポイントは指定された書式で記入すること。	
2	臨床実習に関する ICT 活用等について 他			
3	臨床実習中の記録報告について 他			
4	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ①（口述発表）			
5	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ②（口述発表）			
6	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ③（実技発表）			
7	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ④（口述発表）			
8	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ⑤（口述発表）			
9	第Ⅰ期臨床実習ワークショップ⑥（実技発表）			
10	第Ⅱ期臨床実習セミナー①（口述発表）			
11	第Ⅱ期臨床実習セミナー②（口述発表）			
12	第Ⅱ期臨床実習セミナー③（実技発表）			
13	第Ⅱ期臨床実習セミナー④（口述発表）			
14	第Ⅱ期臨床実習セミナー⑤（口述発表）			
15	第Ⅱ期臨床実習セミナー⑥（実技発表）			
備考 発表用のパワーポイントの書式は別途指示する。				
教員の実務経験		（臨床経験年数） 村野 信之（臨床経験 14 年） 大寺 健一郎（臨床経験 13 年） 南正覚 肇（臨床経験 10 年） 馬場 義行（臨床経験 11 年） 古瀬 正志（臨床経験 29 年） 吉田 敏郎（臨床経験 20 年） 長友 典子（臨床経験 9 年）		
実務経験を活かした教育内容		長期実習での症例報告会では、実際の臨床現場での考え方や対応について、実践的な指導を行う。		

授業名	理学療法統合Ⅱ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		3 年	30（15）	1
担当講師	村野信之、大寺健一郎、南正覚肇、馬場義行、古瀬正志、吉田敏朗、長友典子 （理学療法学科 専任教員）	授業形態		必須/選択
		講義、実技		必須
教科書	・ 特別講義資料 ・ 国家試験問題 ・ 模擬試験問題	成績評価 ・ 筆記試験（100 点） ・ 模擬試験での全国偏差値 50 を 60 点に換算し、60 点以上を合格とする。		
参考書				
授業概要	・ 理学療法に関する知識・技術 ・ 国家試験受験を想定した国試対策講義 ・ 国家試験レベルの課題の実施 ・ 国家試験問題の過去問題の実施			
授業目標	・ 模擬試験において国家試験合格レベルの得点をとることができる。 ・ 国家試験の過去問題において国家試験合格レベルの得点をとることができる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
1	疾患別理学療法統合（理学療法概論）			国家試験合格レベルの知識が整理できるよう、復習をしっかりと行う。
2	疾患別理学療法統合（運動療法）			
3	疾患別理学療法統合（物理療法）			
4	疾患別理学療法統合（義肢装具学）			
5	疾患別理学療法統合（日常生活活動学）			
6	疾患別理学療法統合（理学療法評価学①）			
7	疾患別理学療法統合（理学療法評価学②）			
8	疾患別理学療法統合（中枢神経障害①）			
9	疾患別理学療法統合（中枢神経障害②）			
10	疾患別理学療法統合（骨関節障害①）			
11	疾患別理学療法統合（骨関節障害②）			
12	疾患別理学療法統合（運動発達障害）			
13	疾患別理学療法統合（内部障害）			
14	疾患別理学療法統合（神経筋障害）			
15	疾患別理学療法統合（地域理学療法学）			
備考 講義では講義プリントを配布する。また、定期的に模擬試験を実施する。				
教員の実務経験		（臨床経験年数） 村野 信之（臨床経験 14 年） 大寺 健一郎（臨床経験 13 年） 南正覚 肇（臨床経験 10 年） 古瀬 正志（臨床経験 29 年） 馬場 義行（臨床経験 11 年） 吉田 敏郎（臨床経験 20 年） 長友 典子（臨床経験 9 年）		
実務経験を活かした教育内容		臨床問題に対応できるよう、基礎的な知識だけでなく、より臨床的なシチュエーションを想定した講義、実技を行う。		

授業名	臨床実習Ⅲ	履修時期	時間数（回数）	単位数
		3 年	720	18
担当講師	全国各施設の臨床実習指導者 理学療法学科専任教員	授業形態		必須/選択
		実習		必須
教科書		成績評価		
参考書		・ 臨床実習出席状況、ポスト OSCE を専任教員が総合評価し点数化する（100 点満点）		
		・ 60 点以上で合格とする		
授業概要	・ 各施設において各期、原則 42 日間の実習を行い、様々な症例に対する臨床的知識・技術を学ぶ。 ・ 実習の前後で OSCE を 1 週間程度実施し、臨床能力の評価を行う。			
授業目標	・ 対象者の持つ諸問題（身体的、心理的、経済的、社会的、家庭的）を対象者の立場に立って理解し、最終的にはこれらの諸問題のうち理学療法の適用となる問題についての解決をはかるための基本的な理学療法が実施できるようになる。 ・ リハビリテーションチームの一員として協調性のある行動を遂行できるようになる。 ・ リハビリテーションチームにおける理学療法士の役割、病院施設における他の関連職種の理解とその他、地域社会における病院施設の役割を説明できるようになる。 ・ 複雑な障害像を呈しない一般的な疾患に対して、基本的理学療法をある程度の助言・指導のもとに行えるようになる。			
授業内容				
回数	内容			準備学習・課題等
	臨床実習Ⅲ 1) OSCE プレ：1 期目実習前 ポスト：2 期目実習後 2) 臨床実習 1 期：2025 年 5 月 7 日～7 月 11 日 2 期：2025 年 7 月 28 日～10 月 3 日			OSCE の予定は変更することがある。 デイリーノート ウィークリーノート、 チェックリストが記載できるよう事前に練習をしておくこと。
備考 デイリーノート、チェックリストの記入方法については説明を行う。				
教員の実務経験		各施設の臨床実習指導者（指定規則に準ずる（臨床実習指導者講習会を受講し登録済みの理学療法士）		
実務経験を活かした教育内容		臨床現場で指導者の助言・監視のもと、実際に対象者の評価や治療の見学または体験を通して、理学療法を学ぶ実習形態とする。		